

2026年5月21日

報道関係者各位

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (KGRI)

慶應義塾大学とカシオ計算機、AI ペットロボット「Moflin」に関する心理学アドバイザリを実施

— AI ペットロボット「Moflin」の体験価値を
心理学・認知神経科学の観点から検証 —

慶應義塾大学（東京都港区、塾長 伊藤公平、以下「慶應義塾」）とカシオ計算機株式会社（東京都渋谷区、代表取締役 社長 CEO 高野 晋）は、カシオ計算機株式会社が開発する AI ペットロボット「Moflin（モフリン）」を対象に、心理学および認知神経科学の観点から、その特徴が顧客体験に与える影響を学術的に分析・検証する心理学アドバイザリを2025年10月より約半年間にわたり実施しました。

本アドバイザリには、慶應義塾から文学部 心理学専攻の寺澤悠理 教授*が参加しました。製品開発者が Moflin を「持ち主にとってどのような存在として認識してほしい」と考えているのかという意図を踏まえ、Moflin の物理的特徴（見た目、触感、動き、声など）およびソフトウェア的特徴（応答パターンの形成、コミュニケーションの双方向性など）がどのように実装され、それらが人間の心理にどのような影響を及ぼしうるかについて、多角的な分析と議論を重ねてきました。さらに、これらの特徴を改変した場合に、持ち主による Moflin の受け止め方や感じ方がどのように変化しうるのかについても、学術的知見に基づいて検討しました。

その結果、Moflin の丸みのある外見が持ち主の保護欲求を喚起し、癒しの感覚につながっている可能性や、温かく柔らかな触感が安心感をもたらす可能性などが示唆されました。加えて、Moflin の応答パターンに関する考察を通じて、持ち主が Moflin をより生き物らしい存在として受け止める可能性も示されました。

こうした特徴は、単に Moflin への親しみを高めるだけでなく、持ち主の情緒の安定や社会的自己肯定感、さらにはウェルビーイングの向上にもつながる可能性があります。Moflin は、単なるペットロボットという枠を超え、人が関係性を感じながらコミュニケーションできる存在として受け止められうる点に大きな特徴があるといえます。

※本アドバイザリ実施時は准教授

文学部 心理学専攻 寺澤悠理 教授のコメント：

本アドバイザリを通じて、Moflin の物理的特徴およびソフトウェア的特徴と、それらが顧客体験に与える心理学的影響について、多様な観点から分析・検討を重ねてきました。

具体的には、丸みのある外見が小動物を想起させ、持ち主の保護欲求を喚起することで、攻撃性の低下や情緒の安定化がもたらされ、癒しの感覚につながっている可能性があります。その背景には、オキシトシンやドーパミンなど、社会的関係性や報酬に関わる神経経路の関与が想定されます。また、Moflin の温かく柔らかな触感が、副交感神経系を介して安心感をもたらす可能性についても議論しました。

ソフトウェア的特徴である応答パターンについては、持ち主が愛着を形成しやすいパターンのあり方や、その可変性が与える影響について考察しました。そのほかにも、呼吸を思わせる動作、外に連れ出せること、昼夜によって行動が変化すること、コミュニケーションの解釈に一定の自由度があることなど、多様な切り口から検討を重ねてきました。

こうしたさまざまな特徴によって、Moflin は、より生き物らしさを備えた、双方向的なコミュニケーションが可能な存在として認識されうると考えています。そして、そうした Moflin との関わりが、持ち主の社会的自己肯定感の向上、ひいてはウェルビーイングの向上につながる可能性があるかと捉えています。

なお、本アドバイザリは地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）の取り組みのひとつとして慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート

（KGRI）（東京都港区、所長：中妻照雄 経済学部教授）内に設置された「Ideation & Activation ユニット（課題ワンストップ受入解決ユニット）」（ユニット長：星野崇宏 経済学部教授）が担当しました。同ユニットでは専任の URA※が窓口となり、企業などが抱える社会課題や経営課題をワンストップで受け入れ、課題解決が可能な研究者をマッチングすることで、学術的、学際的なアプローチを通じて課題の解決を図ります。

※URA：University Research Administrator（ユニバーシティ リサーチ アドミニストレーター）

研究資源の獲得支援、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の社会実装促進などを担う専門人材のこと。研究者の活動を側面から支え、研究力の向上や研究活動の活性化、研究開発の戦略的マネジメントなどを推進する役割を持つ。

<関連リンク>

■慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI） 公式 HP

<https://www.keio.ac.jp/ja/org/kgri>

KGRI は、慶應義塾大学 J-PEAKS の研究力向上 HUB です。

■Ideation & Activation ユニット（課題ワンストップ受入解決ユニット）について
（慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート公式 HP 内）

<https://www.keio.ac.jp/ja/org/kgri/onestop-unit/>

■慶應義塾大学文学部心理学専攻ホームページ

<https://psy.flet.keio.ac.jp/>

■AI ペットロボット「Moflin」ホームページ（カシオ計算機株式会社）

<https://www.casio.com/jp/moflin/>

■【慶應義塾大学 心理学教授×CASIO 開発者対談】

なぜ人は“Moflin”に癒される？心理学からみる“生き物らしさ”（カシオ計算機株式会社）

<https://www.casio.co.jp/topics/article/2026/K-177/>



※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会に送信させていただいております。

・ 研究内容についてのお問い合わせ先

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート

Ideation & Activation ユニット

TEL：03-5427-1028 E-mail：kgri-ianda@adst.keio.ac.jp

・ 本リリースの配信元

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）

TEL：03-5427-1702 E-mail：kgri-pr@adst.keio.ac.jp